



様式第 8 号（第 6 条関係）

平成 27 年 3 月 31 日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

（会派代表者経由）

会派の名称 むつみ会

経理責任者氏名 永山 伸一



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第 8 条の規定により、次のとおり、平成 26 年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 840,000 円

2 支出

（単位：円）

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	757,422円	6/4～6長野県、2/3～5青森県・宮城県視察
研 修 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費		
合 計	757,422円	

3 残余の額

82,578 円

注 1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成27年 3月31日

薩摩川内市議会  
議長 上野 一誠 様

会派の名称 むつみ会  
代表者名 大田黒 博



活動報告書

1 調査研究事業

【第1回政務調査】

(1) 調査年月日

平成26年6月4日（水）～平成26年6月6日（金）3日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一、福元光一、森満晃（5名）

(3) 調査先及び調査項目

長野県佐久市

「商店街の活性化について」

長野県飯田市

「6次産業化の取り組みについて」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

【第2回政務調査】

(1) 調査年月日

平成27年2月3日（火）～平成27年2月5日（木）3日間

(2) 調査参加者

大田黒博、宮里兼実、永山伸一（3名）

(3) 調査先及び調査項目

青森県大間町

「大間原子力発電所の現状等について」

宮城県仙台市

「仙台火力発電所の現状等について」


(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

# 会派視察報告書

平成 26 年 7 月 1 日

薩摩川内市議会  
議長 瀬尾 和敬 様

会派名 むつみ会  
代表者名 宮里 兼実 

政務活動による視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

- 1 調査年月日  
平成 26 年 6 月 4 日 (水) ~平成 26 年 6 月 6 日(金) 3日間
- 2 視察参加者  
宮里 兼実・大田黒 博・福元 光一・永山 伸一・森満 晃
- 3 視 察 先
  - 1, 岩村田本町商店街振興組合
    - (1) 住所等  
長野市佐久市岩村田 7 5 8 番地
  - 2, 農家民泊ふれあい農園おおた
    - (1) 住所等  
長野県飯田市千栄 2 1 6 5 番地
- 4 視 察 目 的
  - (1) 商店街の活性化について
    - ・行政がらみでない「商店街単独の地域活性化」構想について
    - ・「子育てお助け村」「寺小屋塾」など空き店舗対策について
    - ・地域貢献を目指した商店街の街づくりについて
  - (2) 6次産業化の取り組みについて
    - ・中山間地域の斜面を利用した農業の在り方について
    - ・体験教育型(民泊)の受入れグリーンツーリズムの取組について

上記の概要は、以下のとおりでした。

## 記

今回、長野県佐久市の岩村田本町商店街振興組合を視察した。「手作り 手仕事 技（わざ）の街」を岩村田本町商店街のテーマとして商店街には、丁寧に人の手をかけて作られた特長のある商品やサービスを提供するお店がたくさんありました。



岩村田本町商店街では、郊外型大型店舗の進出や地域住民の生活スタイルの変化に伴い、商店街としての役割を「地域住民のコミュニティの場」として位置づけ、商店街振興組合主導で様々な事業に取り組んでいた。



本町おかず市場＝安心安全な手作りのお惣菜が常時50種類ほど揃っていた。



本町手仕事村＝岩村田本町商店街振興組合が募集した 2.5 坪のミニショップ開業支援の企画に募集して振興組合の審査を無事通過した手技系の6つの小さなお店がチャレンジャーとして営業されていました。



「寺小屋塾」平成 21 年開設 空き店舗対策

- ・全国初の商店街直営の学習塾
- ・商店街で子どもを育てる
- ・子育て村（アンケートから誕生）
- ・昼間は大人向け、各種文化講座開催（多代の交流の学びの拠点）
- ・日経の「子育て大賞」受賞（子育てに関する情報提供や親子を対象としたイベントなど実施している）

### 農家民泊「ふれあい農園おおた」

長野県南部に位置する飯田市の天竜峡から山間へ数分車で走ると千栄という小さな集落があり、農林水産省と国土交通省が実施する「おかあさん百選」認定で、太田いく子さんが営んでいらっしゃる「ふれあい農園おおた」があった。

築 50 年の古い農家を改築し開業し、飯田市が進める体験教育型旅行の受入れ農家のリーダー的存在である。

中山間地域の千代集落で飯田市を通して国の機関から「都会の子どもたちに田舎の生活 2.3 日、体験させてほしい」と打診があり、平成 8 年 4 軒の農家からスタートしたそうです。農家の体験としては、それぞれ農家で栽培している

りんご・なし・ねぎ・酪農などで、初めて体験する中高生の子どもたちには見ることすることがとても新鮮に感じられるそうである。都会はもちろん全国各地から民泊を体験し、あたたかいおもてなしに満足して帰られる。今では中国をはじめ海外からのお客様もいらっしゃるそうです。

民泊営業に必要な保健所の許可を取り、「どぶろく特区」の許可も取得し試行錯誤しながら努力され、現在では飯田市全体での受入れ農家も増えているそうである。中山間地域の斜面が多く平地の少ない地域で農家民泊というスタイルで六次産業の取組につなげていらっしゃる。

太田さんの前向きな発想・行動は、各層の指導者からの評価も高く、民泊を体験された方を中心に民泊を通してのふれあいや不登校の子どもたちとの対話など、講演依頼も多く全国各地へも足を運ばれ、これまでの経験等をお話されるそうです。

田畑や山を囲んで頂く郷土料理は、まさに「田舎のおふくろの味」でした。おいしい料理と手作りの「どぶろく」の味が、太田いく子さんの「人が好き」・「農業が好き」・「地域が好き」をモットーに全身全霊のおもてなしに感動しました。




終わりに、今後の本市における商店街の活性化並びにグリーンツーリズムの受入れなど参考にしていきたい。

# 会派視察報告書

平成27年3月16日

薩摩川内市議会  
議長 上野一誠 様

会派名 むつみ会   
代表者 大田黒 博

政務活動による視察を実施したので、次のとおり報告します。

- 1 視察何月日  
平成27年2月3日(火)～平成27年2月5日(木)
- 2 視察参加者  
大田黒 博、宮里兼実、永山伸一
- 3 視察先  
青森県大間町 電源開発株式会社 大間現地本部 大間原子力建設所  
宮城県仙台市 東北電力株式会社 仙台火力発電所
- 4 視察目的  
大間原子力建設所 新設原子力発電所の現状について  
仙台火力発電所 環境にやさしい高効率の発電所の現状について
- 5 視察の概要  
別紙のとおり

\* 電源開発株式会社 大間原子力発電所

1. 計画概要

大間原子力発電所は、青森県下北郡大間町に位置し、津軽海峡に面している。敷地は海岸沿いの標高10m以下の平坦地と標高10～40m程度のなだらかな海岸段丘からなっている。

建設地点	青森県下北郡大間町
着工	平成20年5月
	平成23年3月 東日本大震災に伴い本体工事休止
	平成24年10月 本体建設工事再開
	平成26年12月 原子炉設置変更許可申請
運転開始	未定
電気出力	138万3千kW
原子炉 型式	改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)
燃料	濃縮ウラン及びMOX燃料

2. 工事進捗状況(平成27年1月現在)

土木工事	取・放水設備工事、敷地内基礎地盤調査工事、敷地造成工事	64.7 億円
建築工事	主建屋新築工事、ボーリングコア倉庫新築工事	38.5 億円
機会電気工事	主建屋の機会・配管・電路等設置工事等	36.1 億円

3. 安全強化対策の概要

大間原子力発電所では、これまでの安全強化策に加え、新規制基準を踏まえながら、更なる安全性の向上を目指し、安全強化対策を実施しており、今後もよりすぐれた安全技術の積極的な導入を検討し、必要な対策については適切に反映することで、安全な発電所づくりにつなげている。

(主な条件)

基準値震動 650ガル

基準津波 最高水位 T.P.+6.3m、最低水位 T.P.-4.1

4. 所管

大間原子力発電所では、平成20年5月に着工し、平成23年3月の東日本大震災により本体建設工事が休止に追い込まれたが、翌年の平成24年10月には本体建設工事を再開しており、現在原子力規制委員会宛に原子炉設置変更許可申請しており、今後の建設スケジュールにおいては、国の許可次第となっている。なお電源開発株式会社としては、今後も建設工事を進め、平成33年には運転を開始したいとの事であった。

また海を隔てた北海道函館市より建設差し止めの訴えを起こされており今後の建設計画は不透明なところが多いとの事であった。



## \* 東北電力株式会社 仙台火力発電所

### 1. 概要

宮城県七ヶ浜半島の末端、松島湾内に面した特別名勝・松島の第2種保護地区に立地し、宮城県内をはじめ東北電力管内に電力を供給している。1959年(昭和34年)10月に1号機が運転を開始、3号機まで増設された。

その後、1～3号機が運転を開始してから40年以上が経ち、二酸化炭素の排出量削減及び発電コストの低減による競争力強化の観点から、経年化した1～3号機を廃止し、新たに廃熱回収型1400℃級紺バインドサイクル発電方式を採用した4号機が建設され、2010年(平成22年)7月より運転を開始した。

燃料の天然ガスは、東新潟火力発電所隣接地の埠頭付近に設置したLNG基地からのパイプライン(総延長251km)を介して、東北天然ガスより供給を受けている。

また、本発電所敷地内には、メガソーラー発電所である「仙台太陽光発電所」がけんせつされ、2012年5月から運転を開始した。

2011年(平成23年)3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって被災したため発電を停止していたが、同年12月20日に試運転を再開、翌年2月8日に営業運転を開始した

### 2. 発電設備

総出力	44.6万kW
敷地面積	約34万㎡
発電方式	1400℃級コンバインドサイクル方式
使用燃料	天然ガス
熱効率	約58%
営業運転開始	2010年(平成22年)7月29日

### 3. 所管

仙台火力発電所はリプレースにより、CO<sub>2</sub>の排出量を約60%に削減するなど環境負荷を提言し、時代に即した環境にやさしい発電所として地域住民との共生を生かしつつ安定したクリーンな電気を将来にわたって供給すべく取り組んでおり、原子力発電所が停止している現在においては、原子力の代替エネルギーとして最有力発電としての期待が高まっている。

本市の火力発電所も建設後数十年経過しており、今後は天然ガスを利用したコンバインドサイクル方式の火力発電所への建て替えも検討すべき時期に来ているのかもしれないと感じたところである。